

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(1月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『ダモイ遙かに』

辺見 じゅん 作 / メディアパル 発行

対象：小学生高学年から高齢者まで



内容のご紹介

お正月に映画を見て来ました。二宮和也が主演の“ラーゲリーより愛を込めて”です。この映画は「収容所から来た遺書」を原作としています。ご紹介する“ダモイ遙かに”は、関連した本でもあります。

先の大戦の終結後、ソ連軍の捕虜として不当にシベリア収容所に抑留された山本幡男さんの生き方・考え方を紹介しています。零下30度では暖かいと感じる極限の世界の中で、重労働を強いられながら生きる事の大切さを伝えます。

人間不信の集団生活の中でも、人を信じる心に、打たれます。人生の中で必読の一冊です。

辺見じゅんさんの作品です。“男たちの大和”などでも知られる作家で歌人でもあります。矢祭町にも訪れています。

また、この本の装画と挿絵は柳田邦男先生の奥様のいせひでこ先生です。

是非、子ども達に読んでほしい本です。

第二次世界大戦後、旧ソ連によってシベリア収容所（ラーゲリ）に連行された日本人は約70万人。零下40度を超える厳寒の中で、飢えと重労働に耐えられず約7万人が亡くなった。毎日が死と隣り合わせの中で、生きてダモイ（帰国）するために仲間たちに希望を与え続けていた主人公山本幡男さんは癌の病床に。余命いくばくもない山本さんに仲間たちは家族への遺書を書くことをすすめる。しかし遺書は収容所から持ち出せない。そこで仲間たちは驚くべき方法を考えた。4500文字の遺書を7人で分担・記憶し、帰国後に家族に伝えた実話である。著者辺見じゅんさんは生前、「極限下でも希望を失わない生き方を、この本で今の中高校生たちに伝えたい」と語っていた。

紹介文・発行者：佐川二亮 / 装画（表紙）・挿絵：いせ ひでこ / 矢祭もったいない図書館